

「川渕依子先生に出遭って」

私が先生と出遭ったのは17歳の時でした。あれから30年近くが経ちました。

当時の手話は、まだ誰も関心のなかった時代でした。ろう学校での教育も口話法中心でした。

私は、耳の不自由な方のための社会福祉の精神から手話を学ぶのかと思っていましたが、川渕先生は違いました。

「ろうあ者にとって第一言語は日本伝統手話です。それを私達は学んでいくのです。英語やフランス語を学んで会話ができるのと同じです。日本語を知らない外国人を障害者とは呼びません。反対に外国語を知らない日本人を障害者とは呼びません。手話通訳士だからと言って社会福祉的発想では、ろうあ者の地位は向上しません。ろうあ者のための手話文学を築きあげるお手伝いをしているのです。そのためにろうあ学校で手話の教育が必要なのです。」と話して下さいました。耳の不自由な方を対等な立場で相手を尊重されている精神に驚きました。手話は社会福祉だけで考えてはいけないのです。

それが、大阪市立ろうあ学校校長高橋潔氏を父に持つ川渕先生の生き様だったと味わっています。

2013.9.25 北條宗昭